

日本地域学会ニューズレター

平成 23 年 no.2

平成 23 年 8 月 30 日

目 次

I.	日本地域学会第 48 回年次大会 (平成 23 年 10 月 8 日-10 日) 参加登録について	... 2
II.	平成 23 年度日本地域学会総会 (平成 23 年 10 月 9 日) 出席のお願い	... 2
III.	理事会報告 平成 23 年度 第 1 回～第 5 回理事会	... 3
IV.	委員会報告 1. 学会賞選考委員会報告 総会での学会賞授与式について 2. 機関誌編集委員会報告 機関誌編集委員会 第 32 回～第 33 回の報告	... 4
V.	会員通信 <会員の動向>太田浩名誉会員の退任記念論文集 出版へ <研究室便り>長崎大学大学院工学研究科システム科学部門 (長崎大学 坂本准教授)	... 5
	第 48 回年次大会準備委員会からのお知らせ 和歌山大学へのアクセス, 会場	... 6

I. 日本地域学会第48回年次大会 (平成23年10月8日-10日)

平成23年度(2011年度)年次大会を下記要領で開催いたします。積極的にご参加いただきますようお願い申し上げます。

記

開催日: 2011年10月8日(土)~10日(月)

開催校: 和歌山大学

会場: 和歌山大学 基礎教育棟(会場案内は別掲)

大会準備委員長: 吉田登(和歌山大学教授)

〃 副委員長: 辻本勝久(和歌山大学教授)

〃 副委員長: 山本祐吾(和歌山大学講師)

大会事務局: 〒640-8510 和歌山市栄谷930

和歌山大学システム工学部環境システム学科

TEL: 073-457-8348 FAX: 073-457-8335

E-mail: yoshida@sys.wakayama-u.ac.jp

主要プログラム: 学術セッション, 総会および学会賞授与式, 公開シンポジウム「低炭素社会と地域再生-地域における環境再生と地域再生を考える」, 懇親会

参加費:	一般会員	5,000円
	学生会員	3,000円
	非会員	10,000円
(公開シンポジウムのみ参加は無料)		
懇親会費(参加者のみ):		
	一般会員・非会員	5,000円
	学生会員	2,000円

申込み方法: 同封の返信用ハガキでお申し込みください。座長, 発表者, 討論者を含め全ての参加者に申込みが必要です。なお総会(9日13時15分を予定)を欠席される場合は, 委任状欄の記入もお願いいたします。

注意事項:

1) 大会に関する最新の情報は学会および大会ホームページにて公表する予定です。

[学会] http://jsrsai.envr.tsukuba.ac.jp/index_jap.html

[大会] <http://www.wakayama-u.ac.jp/~yoshida/jsrsai2011/>

2) 発表予定稿が提出されたものについては, 学会HPから事前にダウンロードできるようにする予定です。

3) 大会ホームページでも一部ホテルの情報を提供していますが, ご予約は各自でお願いいたします。

4) 大会期間中の昼食は学食をご利用いただけます。

以上

II. 平成23年度日本地域学会総会 (平成23年10月9日)

日本地域学会 会員 各位

日本地域学会

会長 水鉤 揚四郎

本年度総会を下記要領で開催致しますのでご出席下さい。なお, 欠席される場合には同封のハガキにて委任状をご提出下さい。

記

日時: 平成23年10月9日(日)13:15-15:00

場所: 和歌山大学 基礎教育棟 G103 教室(会場案内は別掲)

総会次第

- 1) 開会の辞
- 2) 会長挨拶
- 3) 来賓挨拶(RSAI元会長 Prof. Kingsley E. Haynes)

4) 議題

- (1) 新入会員・退会希望者の承認
- (2) 平成22年度の事業報告の承認
- (3) 平成22年度の収支決算の承認
- (4) 平成24年度の事業計画の承認
- (5) 平成24年度の収支予算の承認
- (6) 平成23年度の収支予算(修正案)の承認
- (7) 名誉会員の承認
- (8) 第49回(2012年)年次大会の開催地, 開催校等の承認
- (9) 第50回(2013年)年次大会の開催地, 開催校等の取扱いの承認
- (10) その他

5) 報告

- (1) 新入会員キャンペーンの継続
- (2) 『地域学研究(41巻)』の編集
- (3) RSAIの動向
- (4) PRSCOの動向
- (5) その他

6) 学会賞授与式

- (1) 選考経過報告
- (2) 学会賞授与
- (3) 受賞者挨拶

7) その他

8) 閉会の辞

以上

III. 理事会報告

平成 23 年次 第 1 回理事会 (持回り)

日 時: 平成 23 年 2 月 14 日 (月)17:00

議題:

1) 日本不動産学会セミナー「最近の不動産取引を巡る紛争と業者の注意点」後援名義使用の件

上記後援名義使用を許可する件につき審議に付し、承認が得られた。

平成 23 年次 第 2 回理事会 (持回り)

日 時: 平成 23 年 3 月 28 日 (月)17:00

議題:

1) 東北関東大震災被災地域会員の会費免除の件

東北関東大震災被災地域会員の平成 23 年度年会費を免除する件につき審議に付し、承認が得られた。

平成 23 年度 第 3 回理事会

日 時: 平成 23 年 4 月 29 日 (金)15:00~15:30

場 所: 学術総合センター会議室

出席者: 氷鉦, 細江, 加賀屋, 宮田, 渋澤, 高橋, 阿部, 白井, 木南, 河野, 斎藤, 酒井, 多和田, 徳永, 戸田, 萩原, 林, 原, 藤岡, 三橋の各理事 (ただし, 有吉, 近藤, 福井, 松本の各理事より委任状付託); 筒井, 柳原監事, 吉田年次大会準備委員会委員長, 木南章編集委員会副委員長; 櫻井, 小林, 内田, 古澤, 徐の各幹事; 坂田事務局秘書

議題:

1) 新入会員・退会希望者の承認

前回理事会以降, 申込のあった 9 名の正会員 (個人会員) の入会と 32 名の正会員 (個人会員) の退会希望を審議し, 総会に諮ることを諒承。

2) 平成 22 年度決算 (案) の審議と承認

渋澤総務担当常任理事より報告と説明があり, 審議の後, 監査を受けて次回総会に諮る事を諒承。

3) 平成 23 年度予算 (修正案) の審議と承認

渋澤総務担当常任理事より報告と説明があり, 審議の後, 次回総会に諮る事を諒承。

4) 平成 24 年度予算 (案) の審議と承認

渋澤総務担当常任理事より報告と説明があり, 審議の後, 次回総会に諮る事を諒承。

5) 平成 22 年度事業報告

渋澤総務担当常任理事より報告と説明があり, 審議の後, 次回総会に諮る事を諒承。

6) 平成 24 年度事業計画

渋澤総務担当常任理事より報告と説明があり, 審議の後, 次回総会に諮る事を諒承。

7) 年次大会規程の改訂

渋澤総務担当常任理事より, 学術セッションでの論文発表者は, 原則として, 当該年度の会費を支払った会員に限る, と年次大会規程を改訂する旨報告と説明があり, 審議の後, 次回総会に諮る事を諒承。

8) 日本地域学会設立 50 周年記念事業への御支援のお願い

氷鉦 50 周年記念事業委員会委員長より報告と説明があり, これを諒承。

9) 第 48 回 (2011 年) 年次大会の並行セッション及びシンポジウムの編成

吉田年次大会準備委員会委員長より, 並行セッション及びシンポジウムの編成について説明があり, これを諒承。

10) 第 49 回年次大会の開催地及び開催機関

渋澤総務担当常任理事より, 立正大学での開催を調整中であることが報告され, これを諒承。藤岡理事及び櫻井幹事より, 年次大会の準備状況について説明がされた。

11) 『地域学研究』セット販売の推進

渋澤総務担当常任理事よりセット販売の推進について説明があり, これを諒承。

12) 新入会員勧誘キャンペーンの推進

渋澤総務担当常任理事より, 新入会員勧誘について説明があり, これを諒承。

13) その他

氷鉦 50 周年記念事業委員会委員長より, 50 周年記念事業シンポジウムについて説明があり, 地域別にシンポジウムを行う提案がなされ, 審議の後, これを諒承。北海道地域は加賀屋理事, 東北地域は高橋理事, 東京地域は藤岡理事, 中国地域は戸田理事, 九州地域は斎藤理事が担当することを諒承。

高橋理事より, 学会の任意団体から一般社団への移行の可能性について説明があり, 審議の後, 当面の間は任意団体とし, 今後の取り扱いについては事務局に一任することを諒承。

氷鉦会長より, 学会連携・震災対応プロジェクトとの

連携について説明がされた。京都で開催された会議に林理事が代理出席し、会議の状況について報告がされた。

報告事項:

1) 機関誌編集委員会報告

多和田機関誌編集委員長より『地域学研究』41巻の掲載候補論文の選考結果と印刷状況について報告が行われた。

2) 第20回学会賞選考委員会報告

酒井学会賞選考委員会委員長より学会賞の選考経過と50周年記念賞について報告が行われた。

3) 平成23年次第1回及び第2回理事会(持回り)

渋澤総務担当常任理事より、第1回理事会(持回り)日本不動産学会セミナー「最近の不動産取引を巡る紛争と業者の注意点」後援名義使用の件、及び第2回理事会(持回り)東北関東大震災被災地域会員の会費免除の件について説明があり、これを諒承したことが報告された。

4) 東北関東大震災被災地域会員の会費免除

氷鮑会長より、東北関東大震災被災地会員の会費免除について報告が行われた。

5) RSAIの動向

6) PRSCOの動向

7) その他

平成23年度第4回理事会(持回り)

日時: 平成23年5月13日(金)17:00

議題:

1) 日本不動産学会平成23年度春季全国大会(シンポジウム)「東日本大震災とまちづくり:これからの防災まちづくりはどう進めるべきか?」共催名義使用の件

上記共催名義使用を許可する件につき審議に付し、承認が得られた。

平成23年度第5回理事会(持回り)

日時: 平成23年3月28日(月)17:00

議題:

1) 東日本大震災の経験から再考する自然環境との共生～食と農と村をつなぐ地域再生への展望～共催名義使用の件

日本環境共生学会主催の標記ワークショップの共催名義使用を許可する件につき審議に付し、承認が得られた。

IV. 委員会報告

1. 学会賞選考委員会

学会賞選考委員会(委員長 酒井泰弘 滋賀大学名誉教授)では現在、慎重審議により平成23年度(第20回)日本地域学会学会賞の選考を行っております。受賞者の発表と授与式は、先にご案内致しました今年度総会の席上とりおこなわれます。

2. 機関誌編集委員会

第32回 機関誌編集委員会

日時: 平成23年4月29日(金) 11:00~12:30

場所: 学術総合センター会議室

出席者: 多和田, 木南章, 氷鮑, 加賀屋, 木南莉莉, 渋澤, 高橋, 藤岡, 細江, 光多, 戸田, 吉田の各編集委員(ただし松本, 浅見, 実積, 福井の各委員より委任状付託), オブザーバとして櫻井, 小林, 内田, 古澤, 徐の各幹事, 坂田事務局秘書

議題:

1) 『地域学研究』第41巻掲載候補論文の選考ならびに掲載論文の決定

レフェリー評価に基づき第41巻の掲載候補論文の選考が行われ、掲載論文を決定した。

2) 同上機関誌印刷方針

第40巻及び第41巻の発行計画と印刷状況について、渋澤総務担当常任理事より報告があった。

3) 同上機関誌書評欄応募図書取扱い

第33回機関誌編集委員会

日時: 平成23年6月19日(日) 11:00~12:30

場所: 学術総合センター会議室

出席者: 多和田, 松本, 木南章, 氷鮑, 加賀屋, 木南莉莉, 実積, 渋澤, 高橋, 藤岡, 戸田, 福井, 吉田の各編集委員, オブザーバとして小林, 櫻井, 古澤, 水野谷, 内田の各幹事, 坂田事務局秘書

議題:

1) 『地域学研究』第41巻掲載候補論文の選考ならびに掲載論文の決定

レフェリー評価に基づき第41巻の掲載候補論文の選考が行われ、掲載論文を決定した。

2) 同上機関誌印刷方針

第41巻の発行計画と印刷状況について、渋澤総務担当常任理事より報告があった。

- 3) 同上機関誌書評欄応募図書取扱い
- 4) その他

V. 会員通信

<会員の動向>太田浩名誉会員の退任記念論文集 出版へ

太田浩名誉会員の青山学院大学退任を記念する論文集 *Positive and Normative Analysis in International Economics* が、今秋にも出版されることになりました。筆頭エディターは国際貿易や資源経済の理論研究で著名な Murray Kemp 博士 (ニューサウスウェールズ大学名誉教授)。太田名誉会員の広範囲にわたる関心と研究成果を反映し、国際貿易や産業組織論における様々なテーマが、実証と規範の両側面から論じられています。詳しくは以下の出版社のサイトでご確認いただけます。

<http://www.palgrave.com/products/title.aspx?PID=524361>

<研究室便り>長崎大学大学院工学研究科システム科学部門

水圏環境システム研究室
准教授 坂本麻衣子

長崎大学大学院工学研究科・工学部は平成23年4月からの組織改組により、それまで7学科であったところが、1学科6コースの組織となった。これは、組織では往々に見られる縦割り型の学科教育の壁を壊すべくなされた組織改変であった。教員の所属も工学部から大学院工学研究科となり、研究重視の機関として新たに襟を正す改組でもあった。執筆者は長崎大学大学院システム科学部門に所属しながら、教育は主に社会環境デザイン工学コースの大学院生、学部生のカリキュラムを担当することになっている。

社会環境デザイン工学コースの前身は土木工学科であり、1969年に設立された。奇しくも長崎は、1982年の長崎大水害、1990年の雲仙普賢岳噴火災害など、度重なる未曾有の大災害を経験しており、長崎大学はこれらの災害の調査・研究を多く蓄積してきている。また、離島が多く、日本で一番海岸線が長い県でもあり、海洋、港湾の整備や維持管理、内海である有明海、諫早湾の水質環境評価

などに対する提言は、土木に関わる大学機関として期待されるところも多い。また、少子高齢化が激しいながらも、離島部には隠れキリシタンの文化遺産が多く残された地域もあり、島嶼の制限された条件下での生産活動が形成する文化的景観として平成22年に国の重要文化的景観を受けた平戸島の棚田群や、軍艦島に代表される近代化遺産、原爆被災地跡など、文化遺産も多く、これらの保全も含めた地域計画をどのように考えていくのかというのも、今後の重要な課題である。

執筆者が所属する水圏環境システム研究室では、八代海の水銀汚染に関わる流動特性の解析や有明海の閉鎖性水域における水質動態解析などを研究する水理学系の教員と、開発途上国の飲料水や衛生問題改善に関する援助計画などを研究する計画系の教員(執筆者)で構成されている。社会環境デザイン工学コースでは、水を扱う研究室としてはもうひとつ河川環境研究室がある。これらの研究室を受け入れ先のひとつとして、平成23年度より日中韓水環境技術者育成プログラムが設立されている。

このプログラムは、文部科学省が平成22年度に創設した「日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成事業」の一環であり、全国の47大学から申請があった事業企画の中から選定された6件のうちの1つである。中国や韓国の大学から長崎大学の大学院工学研究科(博士前期課程)に留学生を受け入れ、将来、東アジアの水環境の保全と持続的利用に関する問題解決に貢献できる、実践能力の高い専門技術者を育成しようとするものである。中国、韓国の10大学とコンソーシアムを組織し、そこで推薦・選抜された留学生10名程度を「水環境保全技術」および「水処理・水利用」の2つのプログラムに受け入れている。前者は主に水環境アセスメント、水環境モニタリングや水環境修復等の技術の修得、後者は主に高分子材料を用いた排水処理・水質浄化、膜技術による海水淡水化、水銀やヒ素の微量分析等の技術の修得を目的としている。このうち、水環境保全技術のプログラムの学生を社会環境デザイン工学コースで受け入れている。最終的には国内企業への就職を目標にしているため、長期インターンシップ(3ヶ月以上)を必修にしている。

このプログラムでは、国際的な社会開発は学際的な観点が必要であるとの考えから、長崎大学の水産・環境科学総合研究科、教育学研究科、経済学研究科及び国際健康開発研究科が連携体制を組んでいる。このうち、国際健康開

発研究科は平成20年4月に設立された国内で最初の国際保健に関する学位(修士, MPH: master of public health)が取得できる学術機関である。執筆者は学内非常勤講師として、このプログラムの講義「環境保健学」を一部担当している。MPHは、国際協力分野では必須の学位として知られており、国際協力へのパスポートとも言われるものである。国際健康開発研究科は、ハーバード大学、世界最大のNGOであるバングラデシュのBRAC, JICA, WHOなど国際協力機関との充実した連携基盤がある。

長崎大学では、2つのグローバルCOEプログラム「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」と「熱帯病・新興感染症の地球規模統合制御戦略」が走っている。「放射線健康リスク制御国際戦略拠点」は原爆の経験から展開されていることは容易に想像がつくが、長崎大学の感染症研究の歴史も実は古い。戦前からの長崎県の離島を中心に流行した感染症(風土病)克服のための研究に始まり、1967年の風土病研究所の熱帯医学研究所への改組を契機に、研究活動はアジア、アフリカなどの途上国に拡大し、特色ある熱帯医学研究が進められてきた。MPHのプログラムは、このような長崎大学の特長とこれまでの実績を活かして展開されたものである。

執筆者は、平成19年度の科学研究費補助金を獲得したことを契機に、ベンガル地域(インドのウエストベンガル州とバングラデシュ)の飲料水のヒ素汚染問題に関する研究を進めてきている。ガンジス川流域のこの地域では、自然由来とされるヒ素が地下水に含まれており、これを飲料水源とする住民(特に貧困層)がヒ素を長年にかけて摂取し続けることで、ヒ素が体内に蓄積し、皮膚がんなどを発症するという問題が報告されている。国際開発援助として、代替水源を提供する水利施設やヒ素除去装置の設置や、ヒ素の害に関する意識啓発などがなされてきているが、ヒ素に汚染された飲料水を摂取する住民の数は未だ多数存在するという現状がある。執筆者らは、現地で水源を選択する女性の観点で水利施設の導入を考えることが重要であるという観点から、これまでいくつかの研究を地域学研究で報告してきた。言うならば、工学(土木)と文化人類学の融合研究である。衛生問題の話になれば、これに加えて保健分野の視座が必要となる。

日中韓水環境技術者育成プログラムやMPHなどのプログラムが謳うように、国際開発の舞台においては、ひとつのディシプリンに固執すると開発援助の失敗に終わっ

てしまう可能性が高く、学際的、総合的な視座が問題解決には欠かせない。それは、国際開発分野に限定される話ではなく、グローバル化が進み、問題の要因が複雑に絡み合う現代社会の問題ほとんどにあてはまることではないかとも思われる。グローバルな課題として、特に、工学、保健、文化、これらの融合は喫緊の課題でないかと思われる。さらに、ここで重要なキーワードになるのが水であると思われる。このような学際的な視座を涵養するために、研究者・教員は自らの目を開く努力を続けることはもちろん、そのような視座を持った人材を育成するという教育的観点から、当研究室では、海外調査に学生をできるかぎり連れて行くという努力をしている。当研究室での活動が、幾ばくかでも水に関わるグローバルな課題の解決に資すれば望外の喜びである。

(了)

第48回年次大会準備委員会からのお知らせ

【和歌山大学へのアクセス】

●和歌山へ●

・南海難波駅から(京阪神周辺)

南海本線急行・特急で和歌山市駅へ約1時間

・JR新大阪駅から(新幹線利用)

新大阪駅から特急くろしお・スーパーくろしお・オーシャンアローでJR和歌山駅へ約1時間

・関西国際空港から(航空機利用)

空港から南海空港線急行で泉佐野乗り換え、急行・特急で和歌山市駅へ約45分

●和歌山大学へ●

南海和歌山市駅前から和歌山バス(11番乗り場和歌山大学行)で約20分

JR和歌山駅から和歌山バス(4番乗り場和歌山大学行)で約30分

各駅から和歌山大学へのアクセスマップ

【会場】

- ・大会会場は基礎教育棟です。
- ・昼食と懇親会の会場は, 大学会館の第1 食堂です。

和歌山大学キャンスマップ

以上